

大学と地方政治の 連携基盤構築を 目指す研究会

地方議員
のための
勉強会

EBPMを活用。産官学金体制で「次世代スマートリージョン」を実現！

第二回

少子高齢時代の「スマート地域包括ケアとは？」

数字で見る看取り難民の実際と将来、認知症・軽度認知障害の罹患者の実際について、羽咋市（+能登・石川全体）、中島町での実例を中心に紹介。高齢者医療・終末期包括ケアに関する理解促進と打開策の検討を行います。

2021年 12月6日[月] 会場：金沢勤労者プラザ
(令和3) 金沢市北安江3-2-20 4階・405研修室

第一部 10:00~12:00

内容：「羽咋市の終末医療や 看取り」

羽咋市では、住民の多くが自宅での看取り希望をしている。しかし年間死亡者数がピークを迎えつつも自宅での看取り件数の増加はない。羽咋市の専門職を対象に進めている調査結果から、質の高い終末医療の体制作りの必要性を語る。

講師



板谷 智也 (いたたに ともや)

金沢大学医薬保健研究域保健学系 助教

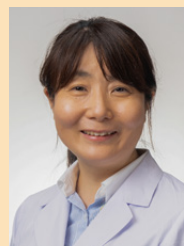
大阪大学医学系研究科で博士号を取得し、2015年に金沢大学に着任。専門は在宅ケアで、現在は主に看取りに関する調査を行っている。その他、医療経済学や地理情報システム等を用い、包括的で実装可能な研究を目指している。

第二部 13:00~15:00

内容：「認知症の最先端研究による 課題提供」

石川県七尾市中島町での研究「なかじまプロジェクト」をベースにMCI（軽度認知障害）・認知症の罹患率や、そこから生じる地域の課題について語る。

講師



篠原 もえ子 (しのはら もえこ)

金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科
特任准教授・博士(医学)

専門は脳神経内科学、認知症。平成12年金沢大学医学部医学科卒業。脳神経内科専門医、認知症専門医、日本認知症学会代議員。

EBPMを活用。産官学金体制で「次世代スマートリージョン」を実現！

行政機関の仕事のあるべき姿に立ち返るための仕組みとして、今期待されているのが「EBPM」です。行政機関においては、民意によって選ばれた議員の声やさまざまなアンケートの結果、有識者の意見を参考にしながら、何らかの根拠に基づいて政策を立案・実行していました。エビデンスとなるデータを集めようにも、予算や資源、人材の面で限界がありました。しかし近年、ビックデータや人口知能AIの活用により膨大なデータから一見見えにくい傾向の抽出が可能になりました。さらに、SNSやネット上の膨大な情報やIOTを活用し、実社会の克明な動きを把握することも可能となりました。EBPMは、ICTが急激に進化したからこそ、実践できるようになった考え方だといえます。

このEBPMの基盤となる様々なデータや最新技術に関して、大学教員と情報交換を行い、地域の産官学金連携体制の構築や、未来につながる社会実験を、地方議員による政治主導で推進し、制度化・政策化を実現していくため、本研究会を企画・開催します。

第二回

少子高齢時代の「スマート地域包括ケアとは？」

2021年(令和3)12月6日[月] 第一部10:00~12:00/第二部13:00~15:00

金沢勤労者プラザ 金沢市北安江3-2-20 4階 405研修室 TEL.076-221-7771

対象：県会議員・市町村議員30~50名程度

参加費：15,000円(1部・1講座あたり/税込) ※午前・午後どちらの部にもご参加の場合30,000円

メールにてお申し込み頂くか、以下申込書に必要事項をご記入いただき、FAXにてご送信ください

参加部会	✓をご記入ください		
	<input type="checkbox"/> 第一部 「羽咋市の終末医療や看取り」	<input type="checkbox"/> 第二部 「認知症の最先端研究による課題提供」	
所属 (議会名・会派名など)			
氏名	ふりがな		
住所	〒		
電話番号 (携帯電話)		FAX 番号	
e-mail	日常的に受信できるPCアドレス		
領収証の要・不要	<input type="checkbox"/> 必要 宛名▶議会名・会派・氏名・その他() <input type="checkbox"/> 不要		

※ご記入頂きました個人情報は、本事業の実施・運営にのみ利用いたします。

参加お申し込み先
FAX:076-298-8904

labo@r-sr.co.jp

Facebook
@regionalrevital

